

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2391400195		
法人名	社会福祉法人 紫水会		
事業所名	グループホーム オーネスト波の花		
所在地	名古屋市緑区大高町字下塩田32-1		
自己評価作成日	平成29年10月 1日	評価結果市町村受理日	平成30年 2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kanji=true&amp;JizyosyoCd=2391400195-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kanji=true&amp;JizyosyoCd=2391400195-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29年10月27日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

開設4年目を迎え、ご本人様やご家族から意向や生活をうかがえる機会が増え、その方の出身地や生活歴等により、その方ゆかりの地を訪れたりその方ゆかりの食事を作ったりして、おひとりおひとりの生きてきた人生が価値を持った大切なものとなるような時間を過ごしていただけるよう考えています。身体面では介助の必要な方が増えてきています。職員は介助の方法を学びその方に合った介助の方法を検討して介助しています。施設で最期を迎えるという選択をされた場合も本人様の人生がかけがえのない物だと感じていただけるよう、最期へと向かう時間の過ごし方をご家族や医務、厨房と何度も相談の時間を重ね、大切な時間を職員も一緒に過ごさせていただきました。今後も大切な時間を共に過ごしていただける関係を築けるようにと考えています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

職員は法人理念である「つながり」を意識し、利用者のこれまでの家族や地域、人間関係等が途切れないように支援している。ゆかり食では利用者の馴染んできた具材や味付けをして提供し、個別で馴染みの場所への外出を支援している。新見南吉と顔馴染みであった利用者は新見南吉記念館を訪問し、釣り好きなのがわかった利用者とはすぐに魚釣りに出かけた。夫婦で入居している利用者は一緒に食事に出かけ、一緒に就寝し、演歌歌手のファンの利用者はコンサートに出かけた。「つながり」は地域交流にも活かされ、地域の祭りやグランドゴルフ大会、編み物教室等に参加し、建物5階のフリースペースを地域のサークル活動の場に提供している。小学校からは学芸会の招待を受け、秋祭りには子供獅子舞がやって来る。つながりが次にどのように展開するか楽しみである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念である「つながり」に向けて、その方の人生の思いが継続できるよう本人に縁のある場所を訪れたり食事を作ったりして生きてきた時間のつながりを感じていただけるよう目標に沿って行っている	職員は法人理念の「つながり」を常に意識し、利用者を中心に家族や地域ともつながりが途切れないように支援している。理念を年度目標に展開し、今年度はゆかり食の実施やゆかりの場所への外出に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議にて地域の情報を聞きながら、地域の防災訓練、盆踊り、お祭り、学校行事等の見学等行っている。又、施設の祭り等に気楽に寄っていただけるよう町内会老人会に挨拶、地域にポスティングを行ってお誘いしている	ホーム行事は地域にチラシを配布し、小学校の学芸会の見学や地域で開催される編み物教室への参加等、地域との交流は盛んである。フリースペースを地域に開放し、サークル活動に活用されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やブログを活用し認知症の方を理解していただく機会としています。又、認知症カフェを開催し、認知症の理解、予防に役立てていただいている。いきいきと協力し認知症サポーター養成講座の開催も予定している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催する会議の中で地域の方から情報を知り、参加させていただいたり、地域の方をご紹介いただき施設内外の活動に協力いただいている	運営推進会議を併設特養と合同で2ヶ月に1回開催し、家族、地域代表、行政が参加している。状況を細かく報告し、行事のチラシ配布も行なっている。参加メンバーから様々な情報を得て、活発に意見交換している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にいきいき支援センターの職員さんが参加される際は施設の情報を伝え、参加できない時はこちらから訪問し相談し今年はいきいき支援センター協力の下認知症サポーター養成講座を開催している	地域包括支援センターの協力で認知症サポーター養成講座や認知症カフェを開催し、地域の認知症高齢者を対象とした「優しい店」の登録依頼も受け入れた。利用希望者の紹介を受ける等、良好な関係がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内はエレベーターで自由に行ききできるようにしてご自身で新聞を取りに行っていたりしている。施設内においては身体拘束に関する研修を行い会議でも勉強している。委員会で拘束について話し合い、スタッフルームには身体拘束防止のポスターを掲示して職員に啓蒙している	併設特養の対応で、建物入り口のみ施錠している。施設内はエレベーター等の利用も可能で、どのフロアも自由に行き来できる。今年度はスピーチロックの改善を重点目標とし、内部研修やリーダーの指導を通じて意識向上に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内において身体拘束、高齢者虐待についての研修を行っている。虐待と取られかねない内出血防止の為、介護技術の勉強、指導を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方もみえ、職員は外部の研修に参加して勉強の機会を得られるようにしている。研修を受けていない職員には内容の情報伝達ができるように研修の資料をファイルして閲覧できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には契約の説明を行う。年度初めには家族説明会を開催し契約書、重要事項説明書、運営規定、介護保険制度の変更点等を説明しご理解いただけるにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関に意見箱を設置し投函できるようにしている。管理者、計画作成者、居室担当者等が来所時や電話等でご意見ご要望を伺い、早期対応を行っている	運営推進会議やホーム行事に家族が積極的に参加しており、来訪時や随時の電話で意見や要望の聞き取りを行っている。「昔を回想できる場所へ連れて行って欲しい」との家族の要望にも応え、実現させた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のグループホーム会議の中で意見交換を行っている。日常の会話においても意見を出し合える環境にある。又、職員面談を通じて意見や提案を聞く機会を作っている	毎月開催される様々な会議や、リーダーが行う個人面談を通して職員の意見や要望を聞き取っている。リーダーは研修を通して自覚を持ち、年長職員に対しても敬意をもって意見し、良好な関係を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の自己評価、計画作成担当者からの評価を得る中で、管理者やユニットリーダーと面談を行い勤務の状況や個々の取り組みを評価し、モチベーションアップに繋げている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務の調整を行い外部研修、法人研修への積極的な参加を促しています。又、施設内研修にも取り組み、興味を持って学ぶことができる環境を整えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修に参加する事で同じ環境の職員との意見交換、交流の機会となり新たに学ぶ良い機会になっています。その後自分自身や自施設の介護に取り入れる等サービス向上に役立っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人との面談を行い、家族の記入したフェースシートを元にこれまでの生活歴や身体状況の情報収集、把握をしている。又、入居後についても家族や本人との会話を通じて良好な関係づくりを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に聞き取りした情報や家族の記入したフェースシートにより希望に沿った支援を行うように努めている。又、入居後についても家族と連絡をとりながら		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談と家族説明会にて実際生活される場所を見ていただき、安心して過ごすことができるようサービスを検討、提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションツール「新聞、テレビ」等を活用し、日常の会話ができるようにしている。又、食事の準備や洗濯たたみ等を共に行う時間を持つことで家族のように接するよう心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出時や行事等には一緒に参加できるよう声をかけている。又、面会時にも声を掛け生活の様子などを伝えながら希望を伺っている。家族の思いとご本人の状況を尊重し合えるよう心がけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人の方と誕生日を過ごされたり馴染のある近所への外出の機会を持つなど個々に合わせて外出計画を立てて実行する事でこれまでの生活、関係が継続できるよう努めている	なじみ食として具材や味付け等、利用者の馴染みのある食事を提供し、縁の場所への外出を積極的に支援している。好きな歌手の公演、弘法参り、和菓子店、一時帰宅、編み物教室と、関係継続の事例は暇ない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出身が同じ地域の方向士に話題を振って他者と話が盛り上がるように声かけしたり、ユニット全員で楽しめるたこ焼きやすき焼きを行ったりして居室にこもりがちな入居者様でも一緒に楽しめる企画を計画している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の転院や状況の連絡を家族様よりいただき、介護の情報を提供する等相談、支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から希望を伺い、計画を立てるようにしている。夕方の入浴や同性介助を希望されている方には配慮している	ふとした切っ掛けで、ある利用者が釣り好きなことを知り、魚釣りに出掛けることができた。管理者は、『会話力をつけて信頼関係を築き、日常会話に出てくるポイントの単語を逃さぬように』と、職員を指導している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	なじみのある生活に近づけるようにフェースシートや過去のアセスメントを活用しながら、日々の会話の中や家族から伺う等して情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床、就寝、排泄等介助をしまいがちなものも本人にできる事は実践していただいている。又、記録やノート等を使用し職員が本人の状態を把握できるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者によりアセスメント、モニタリングを行っている。カンファレンスではご家族にも参加していただいたり担当者以外の職員も参加し意見を出し合って介護計画につなげている	居室担当職員が3ヶ月に1回モニタリングを行い、6ヶ月ごとに家族も参加したサービス担当者会議を開いている。介護職員のほか、厨房職員や医療職員等の多様な人材を交えて話し合っている。	介護記録の様式が新しくなったため、介護計画に沿った記録が明確となっていない。介護記録の取り方の再考が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	医務と介護が同じ記録用紙に記録できるようになり、本人の状態がより分かりやすくなった事で、記録を活用して職員間での情報を共有し介護計画につなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内、施設内に他事業所がある為、ニーズに合わせて柔軟に対応できるよう検討し、連携を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や地域の入居者家族様からの情報にて、お祭り、防災訓練への参加等、地域へ出かけていく機会を持つことができるようになっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回医師の往診を受け、日常の健康管理をしている。入居前からのかかりつけ病院への受診の際には施設側と病院側の情報を伝達し合い対応できるようにしている	併設特養の看護職員が日常の健康管理を行い、緊急時にも即時対応できる体制にある。月2回のホーム協力医の往診にも看護職員が立ち会っている。専門科への通院は家族対応を原則としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中は介護が気付いた事を報告、相談しながら対応している。必要時には往診医の指示を伺い対応している。夜間帯も宿直を通じて判断に迷う際には看護師に連絡し指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は家族からの状況説明や直接面会にうかがい病院からの情報を得る事ができるようにしている。施設側も看護師を通じて施設内の看護サマリー作成等生活状況が伝わるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りに対する説明、同意をいただいている。看取りを選択した方は往診医より説明、週に1回家族、看護師、厨房、介護他で本人の最期に向けた時間をどのように過ごしていくか話し合い、事業所全体が協力して本人を支える体制をとっている	入居時に利用者や家族の意向を聞き取り、医療行為が発生しない限り看取りを行うことを説明している。今年度1件の看取りを行った。状態の変化の都度家族と話し合い、看取り指針に従って医師や看護師、厨房職員とも連携して取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	怪我の手当やAEDの使用方法など研修を通じて緊急時の対応力を身につける事ができるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体で昼夜共に想定した避難訓練、消火訓練を実施して車椅子を使用している重度の方の避難の方法等も身につけている。又、外部との連携として地域の防災訓練への参加を行うことで災害時の協力をお願いしている	年2回、併設特養と合同で避難訓練を実施している。津波想定では垂直避難を行い、火災想定では消火訓練とベランダへの避難を行っている。備蓄品は施設倉庫に保管し、1日分はフロアで保管している。	運営推進会議等で災害避難時の地域協力を要請をしているが、具体的な取り組みには至っていない。災害避難時は地域の協力が不可欠であり、早期の体制作りが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室内のプライベートな空間での介助や排泄の介助等、周囲に配慮したり目上の方である意識を持って声掛け対応を行うよう心がけている。	権利擁護の研修を行い、言葉遣いや慣れ等の基本的な部分も細かく見直し、尊厳の確保を徹底している。自分に置き換えることで利用者の気持ちに配慮し、同性介助の希望にも対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に伺い、好きな色の服を着ていたできるように選んでもらったり決めていただくようにしている。時には選択できるような質問にて自己にて判断できるように促している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを把握し、その都度希望に合わせる事ができるようにしている。喫茶に行きたいと言われる時は行けるようにしたり夜更かしをされる方や朝ゆっくり起きられる方等個々それぞれの生活リズムで過ごされている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常では指輪をはめたりカチューシャをつけたりされている。又、髪を染めたりおしゃれする気持ちを持っていただくようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、洗い物、テーブル拭きなどを他入居者様や職員と行い準備や片付けが楽しい物になるようにしている。入居者様の好みや昔から食べなれたものを作る機会を考え、話題提供しながら食事できるようにもしている	特養厨房で調理し、その内一品をユニットごとに調理している。ゆかり食の実施により利用者の好みの食事が増えた。できる利用者は調理をはじめ盛り付けや後片付け等を積極的に行い、楽しみながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1000ccの水分の提供を目指しておすすめしている。居室で飲みたいときに飲まれる方は居室で飲めるよう水筒等整えている。食事は栄養士と相談し糖尿病のある方等にもその方に合った栄養が摂れるようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けして口腔ケアを行っている。本人管理では歯ブラシをなくしてしまう方には職員が預かって行っている。マウスウォッシュを好む方には使ってもらい、職員は毎月往診の歯科と勉強会を行い、実践につなげている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パッドやリハパンを自分で装着していただくよう声をかけたりして本人の状態に合わせてトイレ動作を行っていただいている。又、職員は排泄用具の勉強会を通してその方に合ったパッドを検討している	可能な限り利用者自身が行うように声かけし、自立排泄の支援を行っている。声を掛けてトイレへ誘導し、失禁によるパッドの交換を削減したり、紙オムツからリハパン・布パンツに改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に冷たい牛乳を飲んでいただいたり、車椅子の自操等、活動量を増やす事で、薬に頼らない自然な排便ができるよう支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前に入浴したい方は午前に入浴していただけるように、夕方を好む方には夕方入浴できるようにしている。又、ぬるめを好む方、シャワーより桶を好む等、本人の希望に合わせて事によって普段落ち着かない方も落ち着いて入浴できている	一人ひとりの希望にあわせ、週に2～3回、時間帯も自由に入浴している。アメニティ用品は利用者ごとに用意されている。ユニットごとに別タイプの特殊浴槽が設置され、重度化しても特養の寝浴で対応ができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕方の足浴や入浴の実施。散歩に出かける等、体を動かして自然な眠りができるようにしている。フロアでは遅くまで起きてみえるかたや日中でも本人の体調等に合わせた居室で休んでいただけようになっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を個人のファイルに保管し、職員はいつでも確認できるようになっている。変更があった場合も看護からその都度連絡があり、状態の変化があれば相談できるようにしている。又、外出時は前日から緩下剤を抜く等、本人に合わせている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	5階の喫茶の利用や菜園作業を行っていた。日常では、洗濯を畳むより干す。食事を作るより洗い物を好む等、本人の希望に沿って行えるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物を希望される方やお参りに行きたい。等、状況に応じて散歩や車での外出を行っている。住み慣れた地域への外出には家族も共に外出する等で協力を得ることができている	散歩や買い物、喫茶と日常的に外出が支援されている。月2回程度、外食や季節を感じる企画外出がある。誕生日には希望の店舗で食事をしたり、馴染みの場所を訪れたり、個別外出を支援している。外出には家族も協力的である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には職員が預かり管理しているが、自己管理できる方は居室に持ってみえる方もあり、買い物の支払い等行っていただいている。預かっている方も支払いの際お渡しし行っていただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って電話をかけていただいたりしている。居室から携帯電話にて直接されてみえる方もある。年賀状は出したい方に出していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングスペースと食事スペースがあり、ソファを手すり替わりとして使用できるよう配置して安全な環境を作れるよう配慮している。又、定期的に居室や共用の空間に写真を飾ったり手作りの作品を飾ったりしてその人らしい雰囲気の空間を作っている。	ユニットは食事スペースとリビングが独立しており、生活にメリハリがある。5階には喫茶コーナーがあり、気兼ねなく家族と話のできる場所となっている。テラスの菜園では利用者が野菜を育て、夏にはビールを飲みながら花火見物を行った。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出身地が近い等、仲の良い方同士は席を近くにしたりして一緒に過ごせるようにしている。又、1人で過ごしたい方はフロアのソファ等でゆっくり過ごされる方もいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた家具や衣類の持ち込みをしていただき安心して生活できるようにしている。昔使っていた物、アルバム等も置き落ち着いて過ごせるよう落ち着く環境を作っている	各居室には洗面台とベッドが備え付けられ、使い込まれた椅子や引き出し、好きな歌手のポスター等の馴染みの品々が持ち込まれている。洗面台の棚の角は保護具を設置し、安全にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の居室前には表札。浴室、トイレには表示をして、ソファや手すりを使って確認しながら動かれる入居者様も自分で動かれている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391400195		
法人名	社会福祉法人 紫水会		
事業所名	グループホーム オーネスト波の花		
所在地	名古屋市緑区大高町字下塩田32-1		
自己評価作成日	平成29年10月 1日	評価結果市町村受理日	平成30年 2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaikogensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2391400195-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaikogensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2391400195-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設4年目を迎え、ご本人様やご家族から意向や生活をうかがえる機会が増え、その方の出身地や生活歴等により、その方ゆかりの地を訪れたりその方ゆかりの食事を作ったりして、おひとりおひとりの生きてきた人生が価値を持った大切なものとなるような時間を過ごしていただけるよう考えています。身体面では介助の必要な方が増えてきています。職員は介助の方法を学びその方に合った介助の方法を検討して介助しています。施設で最期を迎えるという選択をされた場合も本人様の人生がかけがえのない物だと感じていただけるよう、最期へと向かう時間の過ごし方をご家族や医務、厨房と何度も相談の時間を重ね、大切な時間を職員も一緒に過ごさせていただきました。今後も大切な時間を共に過ごしていただける関係を築けるようにと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念である「つながり」に向けて、その方の人生の思いが継続できるよう本人に縁のある場所を訪れたり食事を作ったりして生きてきた時間のつながりを感じていただけるよう目標に沿って行っている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議にて地域の情報を聞きながら、地域の防災訓練、盆踊り、お祭り、学校行事等の見学等行っている。又、施設の祭り等に気楽に寄っていただけるよう町内会老人会に挨拶、地域にポスティングを行ってお誘いしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やブログを活用し認知症の方を理解していただく機会としています。又、認知症カフェを開催し、認知症の理解、予防に役立てていただけるようにしている。いきいきと協力し認知症サポーター養成講座の開催も予定している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催する会議の中で地域の方から情報を知り、参加させていただいたり、地域の方をご紹介いただき施設内外の活動に協力いただいている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にいきいき支援センターの職員さんが参加される際は施設の情報を伝え、参加できない時はこちらから訪問し相談し今年はいきいき支援センター協力の下認知症サポーター養成講座を開催している		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内はエレベーターで自由に行ききできるようにして、ご自身で新聞を取りに行っていたりしている。施設内においては身体拘束に関する研修を行い会議でも勉強している。委員会で拘束について話し合い、スタッフルームには身体拘束防止のポスターを掲示して職員に啓蒙している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内において身体拘束、高齢者虐待についての研修を行っている。虐待と取られかねない内出血防止の為、介護技術の勉強、指導を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方もみえ、職員は外部の研修に参加して勉強の機会を得られるようにしている。研修を受けていない職員には内容の情報伝達ができるように研修の資料をファイルして閲覧できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には契約の説明を行う。年度初めには家族説明会を開催し契約書、重要事項説明書、運営規定、介護保険制度の変更点等を説明しご理解いただけるにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関に意見箱を設置し投函できるようにしている。管理者、計画作成者、居室担当者等が来所時や電話等でご意見ご要望を伺い、早期対応を行っている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のグループホーム会議の中で意見交換を行っている。日常の会話においても意見を出し合える環境にある。又、職員面談を通じて意見や提案を聞く機会を作っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の自己評価、計画作成担当者からの評価を得る中で、管理者やユニットリーダーと面談を行い勤務の状況や個々の取り組みを評価し、モチベーションアップに繋げている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務の調整を行い外部研修、法人研修への積極的な参加を促しています。又、施設内研修にも取り組み、興味を持って学ぶことができる環境を整えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修に参加する事で同じ環境の職員との意見交換、交流の機会となり新たに学ぶ良い機会になっています。その後自分自身や自施設の介護に取り入れる等サービス向上に役立っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人との面談を行い、家族の記入したフェイスシートを元にこれまでの生活歴や身体状況の情報収集、把握をしている。又、入居後についても家族や本人との会話を通じて良好な関係づくりを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に聞き取りした情報や家族の記入したフェイスシートにより希望に沿った支援を行うように努めている。又、入居後についても家族と連絡をとりながら		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談と家族説明会にて実際生活される場所を見ていただき、安心して過ごすことができるようサービスを検討、提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションツール「新聞、テレビ」等を活用し、日常の会話ができるようにしている。又、食事の準備や洗濯たたみ等を行う時間を持つことで家族のように接するよう心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出時や行事等には一緒に参加できるよう声をかけている。又、面会時にも声を掛け生活の様子などを伝えながら希望を伺っている。家族の思いとご本人の状況を尊重し合えるよう心がけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある場所等に外出の機会を持つなど個々に合わせて外出計画を立てて実行する事で馴染みの方と過ごしたり、今までの生活、関係が継続できるよう努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の話題を振って他者と話が盛り上がるように声かけしたり、全員が喫茶を楽しめるようにユニット全員でおやつを喫茶で食べたりして居室にこもりがちな入居者様でも一緒に楽しめるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の転院や状況の連絡を家族様よりいただき、介護の情報を提供する等相談、支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から希望を伺い、計画を立てるようにしている。本人が意思を伝えにくい方はご家族から希望を伺い本人が望まれると思われる方向へと配慮している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	なじみのある生活に近づけるようにフェースシートや過去のアセスメントを活用しながら、日々の会話の中や家族から伺う等して情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床、就寝、排泄等介助をしてみがちな事も本人にできる事は実践していただいている。又、記録やノート等を使用し職員が本人の状態を把握できるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者によりアセスメント、モニタリングを行っている。カンファレンスではご家族にも参加していただいたり担当者以外の職員も参加し意見を出し合って介護計画につなげている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	医務と介護が同じ記録用紙に記録できるようになり、本人の状態がより分かりやすくなった事で、記録を活用して職員間での情報を共有し介護計画につなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内、施設内に他事業所がある為、ニーズに合わせて柔軟に対応できるよう検討し、連携を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や地域の入居者家族様からの情報にて、お祭り、防災訓練への参加等、地域へ出かけていく機会を持つことができるようになっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回医師の往診を受け、日常の健康管理をしている。入居前からのかかりつけ病院への受診の際には施設側と病院側の情報を伝達し合い対応できるようにしている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中は介護が気付いた事を報告、相談しながら対応している。必要時には往診医の指示を伺い対応している。夜間帯も宿直を通じて判断に迷う際には看護師に連絡し指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は家族からの状況説明や直接面会にうかがい病院からの情報を得る事ができるようにしている。施設側も看護師を通じて施設内の看護サマリー作成等生活状況が伝わるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りに対する説明、同意をいただいている。看取りになった際は往診医より説明、週に1回家族、看護師、厨房、介護他で本人の最期に向けた時間をどのように過ごしていけるか話し合い、事業所全体が協力して本人を支える体制をとっている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	怪我の手当やAEDの使用方法など研修を通じて緊急時の対応力を身につける事ができるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体で昼夜共に想定した避難訓練、消火訓練を実施して車椅子を使用している重度の方の避難の方法等も身につけている。又、外部との連携としてとして地域の防災訓練への参加を行うことで災害時の協力をお願いしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室内のプライベートな空間での介助や排泄の介助等、周囲に配慮したり目上の方である意識を持って迅速に声掛け対応を行うよう心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に伺い、選んでいただいたり決めていただくようにしている。意思疎通ができない方にも表情から読み取れるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを把握し、その都度希望に合わせる事ができるようにしている。喫茶に行きたいと言われる時は行けるようにしたり夜更かしをされる方や朝ゆっくり起きられる方等個々それぞれの生活リズムで過ごされている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容等居室で整えてからフロアに出させていただいたり、服やパジャマも本人に選んでいただくようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、洗い物、テーブル拭きなどを他入居者様や職員と行い準備や片付けが楽しい物になるようにしている。入居者様の好みや昔から食べななじんできたものを作る機会を考え、話題提供しながら食事できるようにもしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1000ccの水分の提供を目指してトロミが必要な方は形態等考えておすすめしている。食事は栄養士と相談し糖尿病のある方等にもその方に合った栄養が摂れるようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けて口腔ケアを行っている。本人管理では歯ブラシをなくしてしまう方には職員が預かり行っている。ハミングッドや舌ブラシ等、本人の状態に合わせて使ってもらい、職員は毎月往診の歯科と勉強会を行い実践につなげている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導をこまめに行う事で排泄パターンを知り、排泄の失敗を減らしている。又、職員は排泄用具の勉強会を通してその方に合ったパッドを検討している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に冷たい牛乳を飲んでいただいたり、車椅子の自操等、活動量を増やす事で、薬に頼らない自然な排便ができるよう支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前に入浴したい方は午前に入ってもらえるように、夕方を好む方には夕方入浴できるようにしている。又、ぬるめを好む方、シャワーより桶を好む等、本人の希望に合わせる事によって普段落ち着かない方も落ち着いて入浴できている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕方の入浴の実施。散歩に出かける等、体を動かして自然な眠りができるようにしている。フロアでは遅くまで起きてみえるかたや日中でも本人の体調等に合わせて居室で休んでもらうようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を個人のファイルに保管し、職員はいつでも確認できるようになっている。変更があった場合も看護からその都度連絡があり、状態の変化があれば相談できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌や書道、折り紙に参加したり菜園作業を行っていただいで楽しんでいただいている。日常では、洗濯を畳むより干す。食事を作るより洗い物を好む等、本人の希望に沿って行えるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物を希望される方やお参りに行きたい。等、状況に応じて散歩や車での外出を行っている。住み慣れた地域への外出には家族も共に外出する等で協力を得ることができている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には職員が預かり管理しているが、自己管理できる方は居室に持ってみえる方もあり、買い物の支払い等行っていただいている。預かっている方も支払いの際お渡しし行っていただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って電話をかけていただいたりしている。年賀状は出したい方に出していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングスペースと食事スペースがあり、ソファを手すり替わりとして使用できるよう配置して安全な環境を作れるよう配慮している。又、定期的に居室や共用の空間に写真を飾ったり手作りの作品を飾ったりしてその人らしい雰囲気の空間を作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出身地が近い等、仲の良い方同士は席を近くにしたりして一緒に過ごせるようにしている。又、1人で過ごしたい方はフロアのソファ等でゆっくり過ごされる方もいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた家具や衣類の持ち込みをしていただきご自宅に近い環境で安心して生活できるようにしている。昔使っていた物、アルバム等も置き落ち着いて過ごせるよう落ち着いた環境を作っている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の居室前には表札。浴室、トイレには表示をして、自分で動かれている。又、いつも同じものを使用することによって理解できるようにしている		